

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

## 公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫  
両団体理事長 半田晴久  
教育部会長 若林克彦  
専務理事兼事務局長 清原 淳平

### 教育部会のお知らせ (第323回)

日時 平成28年3月25日(金) 午後1時半～3時半

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第4会議室

千代田区永田町2-2-1

- ◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より下車2分、永田町駅(有楽町線・南北線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。時刻前に到着された方は、恐縮ですが、金属探知機通過後、受付脇のロビーにてお待ちください。会議開始後にお越しの方は、受付に「第4会議室に行きたい」旨、お伝え下されば、お迎えにまいります。

議題 1、最近の教育問題について思う

挨拶 若林克彦部会長(国士舘大学前学長)

2、東京大学生産技術研究所の挑戦

—— 時代の活力を担う研究所として ——

解説 藤井輝夫東京大学生産技術研究所所長

報告 去る2月19日開催の第322回教育部会は、若林克彦部会長が議長を務め行われました。まず、清原淳平専務理事より、当日の講師・河村弘庸東京女子医科大学名誉教授の経歴紹介がありました。次に、若林部会長より開会挨拶がありました。大学の定員割れ・定員超過が問題となっている。現状、50%以上の定員割れを起こした大学については、補助金を不交付とする方針となっているが、その基準を段階的に引き上げて行くことも検討されて

いる。学生確保に苦しむ地方の国公立大学にとっては、生き残りをかけた厳しい競争にさらされることになりそうだ。

これを受けて、河村先生より、「日本の医学教育の現状と問題点」と題して以下の趣旨の解説がありました。日本の医学教育は、まず入学試験に合格した者が、6年間の教育課程を経て、医師国家試験を受験する。合格後、更に臨床研修や専門研修が2～6年あり、10数年かけてようやく一人前の医師となる。まず、国立の医科大学は、面接を入試に導入する大学が多い。私立の医科大学は、学費が最高で5千万円に達する大学もある。入学後、1, 2年次は一般教養となり、3年次から解剖や生理学などの基礎医学が始まり、臨床医学課程を3年行ってから、6年次で希望病院で選考試験を行い、医師国家資格が卒業試験の役割を果たしている。卒業後は研修医となるが、かつては給料が出ず、奨学金の名目で月6万円が支給されるのみ。そして労働者として認められていなかったため、保険もきかず、週100時間近くの労働時間で、当直明けに日勤を行うことが常態化していた。その合間に医学博士か専門医試験の勉強も入ってくる。その苛酷な労働環境が改められたのが平成16年の過労死事件判決であった。新制度の導入によって月30万円が支給されるようになったが、いまだ4割は80時間以上の時間外労働を行うなど、労働環境が改善されているとは言い難い。また、研修は1つの病院に限定されているため、地方の病院は研修医の確保に苦しんでいる。そして、長時間に及ぶ手術を要し、緊急対応の必要な外科などを研修医が選択しない傾向も目立っている。病気はいつ急変するか分からないものだが、優秀な人材をいかに確保するか、高い学費を払えなくて医師を断念することが起きない対策が求められている。

また、脳の仕組み、認知症のメカニズム、男性と女性の脳の相違点など、御専門の脳科学についても解説があり、その後の意見交換も盛んでした。

★レクチュアにつき、資料代千円に御協力御願い申し上げます。

次回、3月25日（金）の教育部会に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様の F A X \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_

テロ対策への警備から、非会員で参加希望の方は、必ず、前日までに事務局へ御連絡下さい。

当日連絡先 080-8836-6203 又は 080-9292-2620

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320  
H P <http://www.jidaisassin.jp> Eメール [kiyohara@jidaisassin.jp](mailto:kiyohara@jidaisassin.jp)